

次世代林業ライフ&ビジネス誌

[フォレストジャーナル]

# FOREST JOURNAL

vol.  
**03**  
2020  
SPRING

# 新林業を変える トレンド

New trend  
in forestry



安全がいちばん



[特集]

フォレスト  
安全対策

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

フォレストジャーナルは「SDGs」の普及啓発に協力しています。



1.剪定作業。樹高25mのヒノキにSRS技術でツリーカーリング。2.山の斜面を降りながら作業する際のデモを見せるジョンさん。3.レスキューポトムアンカーの使い方を説明するジョンさん。  
4.ロープ高所作業(樹上)特別教育の講師養成セミナーでのレクチャーの様子。5.講習専用の教科書。講習は実習と座学で行われる。6.ツリーハウスに住むジョンさんのウェルカムボード。



アーボリスト®トレーニング研究所  
☎ 0561-86-8080  
<http://japan-atl.com>



アーボリスト®トレーニング研究所所長  
ISA理事・農学博士・中部大学教授  
ジョン・ギャスライトさん



樹木の生育を助ける木のスペシャリスト、樹護士(アーボリスト)。危険を伴う作業を安全に実施するためのリスクマネジメントとは。アーボリスト®トレーニング研究所(ATL)所長のジョン・ギャスライトさんにお話を伺った。

ギアを駆使して高木に登り、樹勢回復や樹形を整えるために樹上で枝や梢を伐り、それをロープを使って安全に地上まで下ろす。昨今、アーボリストII伐採屋という勘違いもあるようだが、木を護るのが仕事だ。しかし、どうしてもこの樹木が危険木ということにな

ると技術を使って伐る。クレーベン車などの侵入できない場所で、高木を根本から伐り倒さずに伐採するには、極めて高度な技術が求められる。近年、こうした「特殊伐採」の需要が高まる一方、作業者の安全確保が大きな課題になつている。そこで参考になるのが、欧米の「アーボリカルチャー」だ。

「アーボリカルチャー」とは、樹木を健康に育てるための樹木管理全般のこと。特殊伐採も、その一部です。欧米では、1920年代頃から各地の「アーボリスト」たちが、労働災害を情報共有する仕組みをつくり、リスクマネジメントの体系化に取り組んできました」とジョン・ギャスライトさんは語る。ATLでは、ツリーカーリングやロープワークなど、アーボリストに求められる技術と知識を、世界水準で学ぶことができる。

「樹上でも地上と同じようにチエンソーバルーンのようになることが目標です。そのため大切なのは、ボジション取り。どこにロープを張り、どの枝から落とし、どう移動すれば安定したボジションを確保できるのか。技術だけではなく、最適で安全な作業手順を組み立てる、



プランニング能力も養います」。万が一の事故に備えて、樹上レスキュー技術の習得にも力を入れている。ここでは怪我をした仲間に安全に下ろす技術を学ぶが、それ以上に重要なのが、自らがレスキューされやすいポジションで作業する術を身につけることだといふ。「レスキューに関する正しい知識があれば、仲間の危険を察知していち早く声掛けすることもできます。常に2人以上で行動するアーボリストにとって、仲間は文字通り命綱です。だからこそ、コミュニケーションが大切。フラットな関係性を構築しておくことが、何よりのリスクマネジメントです」。

ATLで一定のコースを修了し、試験に合格すると「樹護士アーボリスト®」の資格を取得できる。国際組織も認める世界基準の資格だ。

実際に、「樹護士アーボリスト®」の認定者は、海外での特殊伐採を任されるケースもあるといふ。

「日本人の森を愛する心や、伝統的な林業の技に、アーボリストの技術が加われば可能性はさらに広がるはず。世界中の子供たちが憧れるヒーローのような職業になるかもしれません。樹木に関わる人がもっとと安全に、もっとと誇りを持って働くよう、これからも精一杯取り組んでいきたいですね」。

セーフティマネジメント 2



## アーボリスト®トレーニング研究所で身につく安全のこと

- 世界基準のアーボリスト技術と知識が学べる
- レスキューに関する理解が深まり、いち早く救助に駆けつけられる
- 指導者を育成するプログラムもあり、現場でのスキルの継承ができる

## SUMMARY

アメリカに本部を置く国際組織ISA (International Society of Arboriculture) が認める、日本国内で唯一のアーボリスト養成組織。ISAの日本支部であるJAA日本アーボリスト®協会 (Japan Arborist®Association) のトレーニング部門として2013年に独立。国際安全技術をベースにアーボリスト技術と知識の普及を通じて、安全第一、労働災害事故防止を目指す。

## アーボリスト®トレーニング研究所

樹護士アーボリスト®に学ぶリスクマネジメント